

第2回 長房中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和3年(2021年)7月11日(日)9:30~12:00
場所	長房小学校 プレイルーム
出席者	参加者:大田原、大塚、鈴木、田中、塚本、西山、長谷川、藤井、藤原、本堂、森、山陰、松葉、渡辺 法政大学:関司教授 社会福祉協議会:吉本 高齢者あんしん相談センター長房:古座野、小野 シルバー見守り相談室長房:光富 第1層生活支援コーディネーター:今泉 八王子地域 PAL-ETTE:小杉、雑賀 資産管理課:高田、小林、西村 地域教育推進課:高橋、持田 未来デザイン室:野田、安齋、牧瀬 RPI:丸木、笠原、加藤、新津
見学者	八王子未来 CAN-VAS:和田
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回長房中学校区地域づくり推進会議資料 ・資料1 地域カルテ(構成案) ・資料2 長房中学校区地域カルテ(レイアウト案) ・資料3 第2回中学校区別ワークショップの取りまとめ内容 ・追加資料 長房中学校区における推進会議等のスケジュール案 ・追加資料 八王子市の公共施設マネジメント

1. 開会

- ・未来デザイン室から挨拶。

2. オリエンテーション

- ・新規参加者による自己紹介。
- ・関司教授から挨拶とゼミ学生の参画などについて説明。

3. 議題

(1) 地域づくりを推進していくポイントを知ろう

- ・関司教授から岡山県の農山村地域の事例の紹介を交えて、地域づくりを推進していくポイントを説明。主なポイントは以下のとおり。
 - ・地域を自分事として捉えることが必要。
 - ・手段・方法に目が行きがちであるが、何のために地域づくりをしているのかに立ち返ることが重要。
 - ・地域住民の意見を足し算することで広く意見交換を行い、それを掛け算して取組を決めていく。
 - ・お互いを知り、共感しあうことから始めていくことが理想。

参加者の意見

- ・説明資料を配付してほしい。

後日参加者全員に配付するよう調整する。(未来デザイン室)

- ・法政大学の学生に長房のシンボルマークを作ってもらいたい。

- ・住民アンケートで長く住み続けたいと答えた人が多かった理由はなぜか。

自然環境との関わりや、上の世代との関係性が築けているからではないか。自信を持って暮らし続けたいと思える場づくりや地域活動の発信をしていくことが大切である。(図司教授)

(2)地域カルテの構成を検討しよう

- ・資料1(地域カルテ(構成案))、資料2(長房中学校区地域カルテ(レイアウト案))をもとに地域カルテについて事務局から説明し、参加者からいただいた意見は、次回以降の資料作成に活かしていくことで整理した。意見交換や質疑応答の内容は、以下のとおり。

【掲載内容】

- ・資料1(地域カルテ(構成案))P4の町会・自治会一覧における「長房自治会」の世帯数に誤りがある。正しくは170世帯。また、「長房町会」を追加する。世帯数は450世帯。

今回の資料1(地域カルテ(構成案))は、参加者の皆様に作成イメージを共有するためのものであり、記載内容は、仮で入力をしている。今後、作成するための情報を収集し、正式なデータを反映させたものを改めて資料として提示する。(未来デザイン室)

- ・「長房ふれあい端午まつり」について取り上げてほしい。市営・都営団地の垣根を超える祭りであり、運営には延べ900人程度が関わっている。来場者は1-2万人である。
- ・長房市民センターでは、現状の掲載情報より多くのサークル活動があるため、多くの情報が掲載できるよう、活動状況を確認する必要がある。
- ・子ども会に加え、老人会も掲載したい。子ども会については、長房町会と長房自治会合同の子ども会は活動しているものの、船田地区や中郷地区には子ども会がない。
- ・地域内の学校の児童・生徒数の推移、また今後の児童・生徒数の将来の予測人数を知りたい。特に、船田町会などは再開発が進むため、将来人数に変化が出てくるのではないかと。

現状の児童・生徒数については、第1回の推進会議資料に記載し、配付している。(司会)

【情報収集】

- ・地域カルテに掲載する情報は、推進会議参加者からの情報に限るのか。その場合偏りが出るのではないかと。推進会議以外の方からも随時情報を募集したい。地域資源が見える化するためには、幅広い情報が必要。地域カルテの情報収集の方法や検討プロセスについても本会議で決めていきたい。(未来デザイン室)
- ・情報が偏らないためにも、住民に広くアンケートを実施し、本会議でアンケート結果をもとに地域カルテを作成してはどうか。子どもの方が知っている情報もある。PTAに協力を仰ぎ、メールで依頼することもできる。
- ・長房町会自治会のネットワークでは、アンケートが取りやすいため、多くの声を収集できる。
- ・新住民、旧住民両方の意見を取り入れたカルテにしたい。
- ・長房市民センター住民協議会だよりのHPに地域のイベント情報が載っている。

【情報発信】

- ・地域カルテの配布対象は誰になるのか。対象者が地域の方か地域外の方かで掲載内容が変わってくるのではないかと。また、配布方法はどのようになるのか。

地域内への配布をメインに考えている。本地域に転入した方などにも渡せるような地域の参考書を目指している。また、市のHPへの掲載や配布は、地域事務所、地域団体のネットワークを活用して行うことを考えている。(未来デザイン室)

- ・情報の更新はどのように行っていくか。更新頻度はどのくらいか。更新が容易であれば、最初に情報を詰めすぎなくてもいい。

更新方法や頻度についても本会議で検討していきたい。(未来デザイン室)

(3)地域の将来ビジョンを検討しよう

- ・資料3(第2回中学校区別ワークショップの取りまとめ内容)を参考に、地域の将来ビジョンの検討を行った。検討結果として、将来ビジョンの大きな方向性は、中学校区別ワークショップで検討した内容で進めることを確認し、今後は、推進会議等を通じてより多くの人の意見を取り入れ検討していくことで整理した。

参加者の主な意見は以下のとおり。

- ・若い世代が「住みたい」と思えるエリアにしたい。
- ・地域ぐるみで学校を拠点に子どもを育てていきたい。子どもという視点が必要。
- ・地域の将来ビジョンを検討するにあたっては、家族ぐるみの取組などの視点も必要。
- ・推進会議で検討するにあたり、参加者のなかに子育て世代・学生・単身や10代後半・20代が少ないことが気になる。特に若年層の世代は自分で住む地域を選ぶことができるので、この世代にアプローチしていくことが大切ではないか。
- ・都営団地の高齢化が進む理由として、入居制限があり子どもや孫が住み続けるのが難しいという問題がある。若い世代の居住が難しい中で地域活性化を進めることに矛盾があるのではないか。市が都に働きかけるなどして住居要件を変え、若い世代も住みやすくする必要があるのでないか。

(4)アクションプラン(課題解決等に向けて必要なこと)を検討しよう

- ・2つのテーブルに分かれてアクションプランの検討を行った。地域で連携してやっていきたいことを書き出した。意見は以下のとおり。なお詳細は、別紙(第2回 長房中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容)に記載。

- ・将来地域を担う人(後継)をつくるための交流の場づくりをする。
- ・誰もが気軽に集える居場所・活動づくり。
- ・今ある居場所や活動を維持しながら、新規移入者が参加しやすい仕組み(環境)づくり。
- ・長く住み続けられる仕組みづくり。住む場所(住居)が安定しないと地域愛が生まれない。
- ・20代、30代限定など、年代別のイベント(例:スポーツ大会)などを開催することで横のつながりをつくる。限定にすることで参加しやすくなる。
- ・推進会議のような住民主体の会議体があるということを多くの人に伝える。
- ・世代によって発信すべき媒体が変わる(紙、ホームページ、SNS)ことを意識した発信。
- ・八王子かるたを使用し、新規移入者や子どもに八王子を知ってもらおう。
- ・長房小学校でやっている挨拶運動や声かけを全ての通行人にすると地域の心のつながりが生まれるかもしれない。
- ・長房の自然を残す活動をする。
- ・子どもと高齢者がつながる安全・安心な町づくり。
- ・長房ファームや放課後教室のような児童や保護者、地域の住民との交流できる場所を増やす。

- ・地域の情報発信・情報共有。特に、地域の人を知れるような情報がほしい。
- ・災害に強い長房をつくる。(川の氾濫対策など)
- ・ご近所とつながりを強くすることで、緊急時に団結できるコミュニティをつくる。
- ・子どもと親が住み続けられる地域。

(5) 地域づくり推進会議に関する意見交換

- ・未来デザイン室から推進会議における多様な意見の取り入れ方や体制などについて、次回以降に具体的な検討を進めたい旨を説明。

意見なし

(6) 公共施設の現状を知ろう

- ・追加資料(八王子市の公共施設マネジメント)に沿って、資産管理課から公共施設の現状を説明。今回は時間の都合上、質問等がある場合は、会議終了後や次回以降に伺うことを伝える。説明概要は以下のとおり。
 - ・公共施設の事故事例を紹介
 - ・人口減少・超高齢社会に伴う税収の減少や社会保障費関係費の増加により、公共施設にかけられる一般財源が少なくなることが予想され、老朽設備の更新など適正な施設の維持管理が課題となっている。
 - ・このような現状を踏まえて、八王子市公共施設マネジメント基本方針及び推進計画に基づき公共施設マネジメントに取り組んでいく。

4. その他

- ・図司教授による総括。概要は、以下のとおり。
 - ・本日の推進会議の様子や住民の熱意を学生に伝えていきたい。
 - ・住民と学生の間に深い交流が生まれることを期待したい。
- ・第3回の推進会議日程(8月29日(日))及び場所(長房小学校)の確認。
- ・第1回ワークショップは、9月18日(土)に開催。

以上

第2回 長房中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

グループワーク 地域の将来ビジョンを実現するために必要なこと

グループ

参加の接点づくり

「あいさつ運動」をすすめていく
(例)
おはよう こんにちは
こんばんは お元気
しばらくですね

後をつないでもらう
子ども、青年(学生)
が触れ合える地域接点を
つくり交流の場づくり

地域のつながり
づくりはまず
あいさつから

魅力ある
居場所づくり
(誰もが気軽に
集える)

地域に関心が低い
人でも参加し
たくなるような
イベント、居場
所が必要

魅力あるイベ
ントづくり
(気軽に参加
できる)

参加対象は
どちらの視点も大切

各世代ごとの
スポーツ大会

年齢の近い世代同
士で交流できる機
会がまず必要
→それを入口に他
の世代につながる

長期的に住み続けられる環境であれば
地域を知りたくなる

長く住み
続けられる
仕組み
(行政対応)

都営団地をはじめ、
長期に渡ってこの地
域に住むことができ
れば、自然と地域も
目が向くはず

後をつないでもらう
世帯の後継ぎが可能
となる地域をめざして
行政とも協力し改革も
含めて

定住の仕組み・環境

地域を知る機会の提供・情報発信

この「あり方」を
知らせること

住民協議会
横山北地区
→会議で話すこと
毎月第3木曜日に開催

長房ふれあい端午
まつりでPRしていく
(講演、展示)

長房地域
(住民)の
良さを理解する
(情報発信)

子どもたちに
八王子市地域を
知らせる
→「八王子カルタ」
横山2小では積極
的にやっている。

長房地域にお住
まいの方に、ま
ずは地域の良さを
知ってもらう
ことが必要

地域を知る
自分への
働きかけを
各自が持つ

住民が自主的に地
域を知ろうと考
えることが大切(そ
れがないと情報は
伝わらない)

自然中心な公園
(水場、アスレ
チックetc)
探索
(虫探しetc)
(山菜採り)

余裕のある土
地などが自然
豊かな公園な
どに活用され
ると良い

自然環境の充実

グループ

つながり・コミュニティの拡充

高齢者を地域で見守る

つながり
【長房ファーム】
地域と児童と父母
先生、お話をしなが
ら草むしり暑いです
が楽しくコミュニ
ケーションできます

世代を超えた
つながりの場
→見守りにも
つながる

子どもを地域で育てる

子どもが親と
住み続けられ
る団地、地域

隣の方の顔が
見えるような
つながり

挨拶をし合える
地域の雰囲気
を広げていく

地域との
結び付き

人とのつながり
が地域を
愛する一歩

町会(組)単位
大きい組織ではなく
小さいグルー
プでの交流

地域のつながり
(ご近所を特
に)防災時に協
力を得やすく

防災対策としての
コミュニティ

子ども・高齢
者住民がつな
がる安全・安
心な町づくり

地域住民の方
や弱者に思い
やりのある町
をつくる

安心・安全な町

地域情報の共有

地域の情報を
発信して情報
の共有化

防災に強い
長房
コミュニ
ティの町長房

防災対策は
安心安全
全ての土台

防災

参加者の
ふせん
補足